

丹寿の風

題字：丹寿荘(特養)利用者 菊川ちよ様

発行所

兵庫県丹波市市島町上竹田 2336-1

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 丹寿荘

電話 0795-85-3251

FAX 0795-85-0075



玄関風景 (特養)



(グループホーム)



(デイサービスセンター)

風は人によって様々な意味を持っています。時には厳しく、時には優しく、時には暖かく、時には冷たく。人の心と生活に身近にある「風」。風は日々色々な表情を見せて、私たちの生活の身近に存在します。「丹寿の風」は、日々移ろいゆく丹寿荘の風景に例え、暖かな風にのせて皆様にお伝えしたいという思いから命名いたしました。
(支援員 金川 正志)

「丹寿の風」の創刊に寄せて

丹寿荘所長 笹谷 正康

「当施設の取り組みなどを外部に発信する機会や手段が今以上にあれば・・・」という思いを持っておりましたら、ある職員から「以前は、『ほほえみ』という手作りの新聞を利用者様のご家族に配布していた」という話を聴きました。それならば、一昨年に新築移転したことだし、装いも新たな機関紙を発行したらどうかという話になり、丹寿荘広報推進委員会の下に機関紙チーム会議が設けられ、編集・発行に向けた準備がトントン拍子に進み、このたびの創刊となりました。

当施設は、昭和51年5月に丹波地域で初の特別養護老人ホームとして開設し、地域の皆様をはじめとする多くの方々に支えられ、33年が経過しております。平成19年10月には、全室個室のユニット型特養や認知症対応型共同生活介護事業所等を有する高齢者総合福祉施設として生まれ変わりました。

利用者様や地域の皆様方から信頼され、愛される施設づくりを一層推進することはもちろんのこと、これまで積み重ねてきた高齢者支援に関するノウハウなどをベースに、当施設の個性や特色、魅力などをはっきりと位置付け、広く発信する必要があると思っています。

この「丹寿の風」がその役割を担う機関紙になることを願いつつ、創刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

兵庫県社会福祉事業団憲章

- 1 一人ひとりを尊重し、自らの意思と責任でその人らしい生き方ができるよう支援します
- 1 総合的な地域ケアのしくみを築き、福祉文化の創造をめざします
- 1 ニーズを敏感にとらえ、先駆的な実践により社会に貢献します
- 1 福祉の心と高い専門性を育み、働きがいのある職場をつくります
- 1 公正・効率的な組織運営と安定した経営基盤を確立します
- 1 自己点検と改善
私たちは、日々のサービスを検証し、不服や苦情を真摯に受け止め、常に業務の改善に生かします
- 1 地域との協働
私たちは、持てる知識や技術を活かし、地域で支え合う仕組みを、ともに創ります
- 1 課題への挑戦
私たちは、ニーズを敏感にとらえ、常に挑戦者として、新たな課題の発見と解決に意欲的に取り組みます
- 1 専門性の向上
私たちは、日々研鑽し、切磋琢磨してサービスの質の向上に努めます

兵庫県社会福祉事業団職員倫理綱領

- 1 人権の擁護
私たちは、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として大切にします
- 1 利用者本位の支援
私たちは、良きパートナーとして、笑顔と思いやりのあるチームケアにより、最善のサービスを提供します
- 1 公正な事業活動
私たちは、法令等を順守するとともに、公正・効率的な事業活動を行います

職員表彰

厚生労働大臣表彰（社会福祉事業従事功労者）

荒木 照子

全国社会福祉協議会会長表彰

竹中 文子・田中 早苗・橋本 久子

兵庫県社会福祉協議会会長表彰

酒井 伸義・高見 里美・岡崎 みほこ

職員表彰（理事長賞）

荒木 照子

永年勤続職員表彰

小野山 佳代子 30年勤続表彰

永田 克己 20年勤続表彰

最近の取り組みから

□百寿のお祝い (21年9月)

西町2丁目で生活されている、中井輝子様（明治42年12月4日生）が年内に100歳を迎えられるにあたり、昨年の9月24日に百寿のお祝いを執り行いました。

兵庫県知事からの表彰状と記念品、内閣総理大臣からの記念品を、丹波健康福祉事務所の柳川所長様から贈呈していただきました。

中井輝子様は、家族や他の利用者様に祝福され、「長生きさせてもらい、皆から祝ってもらって、ありがとうございます」と、涙を流しながら手を合わせ、何度も頭を下げられました。中井輝子様、末永くお元気にお過ごし下さい。



□認知症ケアセミナー (21年11月)



「がんばりすぎない介護をめざして」

～認知症ケアの現場から～

11月8日(日)に兵庫県丹波認知症疾患医療センター長であり、特別医療法人敬愛会大塚病院精神科医師の福井辰彦氏を講師にお招きし、約150名の参加者のもとに認知症ケアセミナーを開催しました。また、認知症の人と家族の会兵庫県支部室屋千代枝様をはじめとする4名によるパネルディスカッションも行いました。

認知症介護に携わる多くの方々から「生の声」を聞かせていただき、改めて「認知症」について考えさせられた貴重な時間となりました。

施設を利用されている方々に満足いただけるサービスを提供し、そのご家族の安心を支えるということに軸足を置きながらも、今後も施設から一歩踏み出し、我々が持つ高齢者支援に関するノウハウを地域に発信していきたいと考えております。

□第三者評価事業の受審 (21年10～12月)

利用者様に質の高いサービスを受けていただくことを目的に、今年度第三者評価を受審しました。手順としては、まず兵庫県の認証を受けた評価機関に申し込み、次に当施設の職員が「福祉サービス第三者評価シート」204項目にしたがって自己評価をします。評価機関はその自己評価の聴き取り、一部のご家族や利用者様にご協力いただいたアンケートを参考にしながら評価を行い、その結果をワムネットに掲載し公表するというものです。

現段階は、評価機関からの結果報告を待っている状況です。

実施して感じたことは、建物は新しく設備も整っており、環境条件は恵まれているということ。サービスの内容について、現状の繰り返しでよいか見直しを行って今後につなげていくこと。また、地域から信頼され、期待される施設をめざして前向きに取り組むことを改めて気付くよい機会となりました。

□職場内研修を開催 (21年12月)

「摂食・嚥下」

12月9日に総合リハビリテーションセンター中央病院 矢持美穂氏による摂食・嚥下についての研修を行いました。実技を行いながらでしたので大変わかりやすく、直ぐに実行できる内容でした。

研修を受けた職員だけでなく、施設職員全員が正しい知識と技術を持って食事介助を行ってほしいという思いを新たにしました。



「救急・救命」

12月21日総合リハビリテーション中央病院の芦塚部長（医療安全対策担当）救急教育チームのスタッフを講師に迎え、救急・救命に関わる研修を29名参加のもと行いました。

心肺蘇生のポイント説明後、3つのグループに分かれ人形を使用した心臓マッサージの仕方や、AEDの正しい使用方法、手順等を学び大変わかりやすい講習でした。

参加した職員は、実際現場で起こりうることなので真剣に取り組みました。

「いざ」と言うときは焦ってしまい、講習を受けた通りの対応をすぐにはできないだろうと思いますが、定期的に学習をし、

身につけておく必要があり、職員同士の連携が速やかなほど延命率は高まるとこの研修を通し感じました。



□新春を迎えて (22年1月 デイサービスセンター)

新春を迎え、丹寿荘デイサービスセンターは「人生ウキウキお楽しみ双六」で笑顔が絶えません。

元気よくサイコロを放って自分のコマが追い越し、追い越されて大きな歓声や大きなため息が聞こえます。

止まっていたところで歌ったり、肩をたたいたり、じゃんけんをしたり体をいっぱい動かして…昔を思い出しての双六です。

この熱気を糧に、今年も夢中になって楽しめる場、安らげる場、来てよかったと思ってもらえる魅力あるデイサービスセンターを目指し、職員一同気持ちを新たに頑張ります。



□こんなこと、あんなこと (22年1月 グループホーム)

グループホーム村いちばんの元気者は、その名のとおり「元気」をテーマにしております。寅年を迎え、今年も様々なことに「トライ」していこうと思います。

トライその①

新年会で「カルタ取り」や「ビンゴゲーム」を楽しみました。



トライその②

歌好きな仲間が集まって「元気100倍合唱団」を結成、ボランティアグループ「あじさいの会」のご協力を得て、デビューコンサートが実現しました。



丹寿荘では、日頃から多くのボランティアの方にお世話になっています。毎月定期的に来ていただき、顔なじみの方もあり、利用者様も楽しみにされています。

今回は、ボランティアの活動内容やコメントを紹介します。

○**所内喫茶**（毎月第3水曜日）

当荘の喫茶室において、おやつと好みの飲み物（コーヒー・紅茶など）を利用者様へ振る舞われています。お茶を飲みながら話をして過ごされ、そのひとときを多くの利用者様も楽しみにされています。

○**お茶クラブ**（毎月第4木曜日）

今年度から2名のボランティアの方による活動開始となりました。毎回、きれいな花を生けていただき、すてきな着物でお越しになるのを楽しみにされている方もあります。目の前でお抹茶を点ていただき、「ちょっと苦いな～」と言いながらも、お菓子と一緒に楽しまれています。



○**レクリエーション**（毎月第2・4土曜日）

毎回4名の方に来ていただき、風船バレーを一緒に楽しんでいます。補助プレイヤーとして、どこに飛んでいくか分からない風船を職員・利用者と共に一生懸命に追いかけていただいています。



○**書道クラブ**（毎月第1火曜日）

毎回、参加利用者様は好きな文字を選び、自分で筆を持って作品を書かれています。

利用者様に気持ちよく文字を書いていただけるように、道具の準備や書き方のアドバイスを行っています。各作品はユニットに持ち帰り展示しています。

ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア

○**SRI スポーツ環境整備ボランティア**

（毎月第4木曜日）

毎月、会社内でボランティアを募集され、丹寿荘の屋外・屋内問わず様々な環境整備をお願いしています。

○**喫茶ピア**

（ふれあいいきいきサロン竹田：毎月第1・3日曜日）

「喫茶ピア」は今年度から月2回行っています。主にコーヒー・紅茶・ココア等を媒介として、ふれあいいきいきサロンの場作りを目的として設けられました。利用者の皆さんとふれあい、語り合う中で、昔話に花が咲き、盛り上がることもしばしばあるようです。スタッフの皆さんからも『心温かくなり、笑顔と元気をもらっています』とコメントをいただいています。また、毎回自然の野草花を生けて喫茶コーナーを明るくしていただき、利用者様にも喜んでいただいております。



○**個人ボランティア**

個人的にボランティア活動をしていただいております。散髪や所内喫茶などユニットから会場への送迎や話し相手、環境整備など定期的に来ていただいているので、職員、利用者様ともすっかり顔なじみです。

○**食事介助ボランティア**（毎月第2・4日曜日）

毎回3名の方がそれぞれの町（ユニット）に入れ、11時30分～12時30分の間、食事の準備や簡単な介助、片づけなどをお願いしています。

○**北奥手芸グループ**（年1回 12月）〈デイ〉

毎年5名の方に来ていただき、タオルや石鹸など、身近な材料を使って干支づくりを教えていただいています。



ボランティア募集.....

このように、丹寿荘では多くの団体からボランティアに来ていただき、職員、利用者様共に助けていただいています。

まだまだ、ボランティアを募集しておりますので、施設で活動してくださる方はお気軽にお声を掛けてください。

年間行事

※共通

	特 養	デイサービスセンター	グループホーム
4月	・お花見 ・寿扇会による踊り鑑賞	・お花見 ・寿扇会による踊り鑑賞	・お花見
5月	・利用者定期検診	・菖蒲湯 ・端午の節句 ・白毫寺藤見物	・母の日お祝い ・ガーデンパーティー
6月	※介護講座6回シリーズ ・トライやるウィーク受け入れ ・利用者定期検診 ・防災訓練	・あさがお植栽 ・ショッピング ・防災訓練	・トライやるウィーク受け入れ ・父の日お祝い ・防災訓練
7月	・七夕 ※介護講座6回シリーズ	・七夕	・七夕
8月	※丹寿荘納涼祭・案山子祭り出展 ・サマーボランティア受け入れ	・夏祭り	・案山子祭り出展 ・グループホーム夏祭り
9月	・敬老会	・ショッピング	・ご家族の集い ・ぶどう狩り ・お月見
10月	・秋祭り	・運動会	・紅葉狩り・秋祭り
11月	・地域行事への参加 ※認知症ケアセミナー ・市島町和光会からの訪問	・干し柿作り	・地域行事への参加
12月	・餅つき大会 ・防災訓練	・クリスマス会・柚湯 ・餅つき大会 ・干支作り	・忘年会 ・餅つき大会
1月	・新年祝賀 ・初詣	・新年会	・とんど焼き ・新年会
2月	・節分	・節分	・節分 ・防災訓練 ・バレンタインデー
3月	・ひな祭り	・ひな祭り ・梅林見物	・ひな祭り ・ご家族の集い

月例行事（特養）

- ・内科医回診
- ・生活相談（随時）
- ・バイキング食（月1回）
- ・音楽療法（月4回）
- ・所内喫茶（月1回）
- ・誕生会
- ・精神科医相談（月2回）
- ・看護相談（月1回）
- ・駅弁の日（月1回）
- ・書道クラブ（月1回）
- ・買物市（月1回）
- ・利用者外出等（ユニット毎随時）
- ・PT指導（月1回）
- ・映画会（月2回）

交流会

- ・前山保育園
- ・竹田小学校
- ・吉見小学校
- ・前山小学校
- ・市島中学校
- ・寿扇会
- ・さつきコーラス
- ・にじの会コーラス

秋祭り



トライやるウィーク



編集後記 「ボランティア」の語源は、ラテン語のVolo「志願者」が自発的に自由意思で何らかの奉仕行為などを行うこととあります。
 施設は地域の皆さまやボランティアに支えられています。創刊にあたり感謝の意を込めて掲載させていただきました。今後ともよろしく願いたします。

※写真・氏名についてはご本人の了承を得ています。